

平成22年4月30日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：平成19年度～平成22年度

課題番号：19520056

研究課題名(和文) チベット仏教における「大中観」思想に関する研究

研究課題名(英文) A Study of the 'great Madhyamaka' in the Tibetan Buddhism

研究代表者 望月 海慧 (MOCHIZUKI, KAIE)
()

研究者番号：70319094

研究代表者の専門分野：インド・チベット仏教
科研費の分科・細目：印度哲学・仏教学
キーワード：

1. 研究計画の概要

本研究は、インド大乘仏教において成立した中観思想がチベットにおいて思想史上新たな発展をみせた「大中観(dbu ma chen po)」の思想的基盤とその展開について解明することである。具体的には、チヨナン派のトルポパ・シェーラブ・ギェルツェン(1292-1361)、同派のターラナータ・クンガニンポ(1575-1640)の著書を解説することを通して、「大中観」の思想が成立する基盤並びにその思想がチベット仏教に与えた影響を分析することにより、チベット仏教思想史における「大中観」思想の意味を明らかにすることである。

2. 研究の進捗状況

これまでトルポパの大中観思想を解明するにあたり、彼の『二諦解明陽光論』、『宝性論注善説陽光論』、『法界讃頌注』、『肉酒禁止聖典論』ならびにターラナータの『最乗詳説大中観論』を取り上げ、これらの文献に見られる引用文献などが解明されている。

3. 現在までの達成度

研究成果としては、上記で取り上げた文献の校訂テキスト並びに和訳研究を公表している。それらにより、彼らが大中観思想を確立する際の思想的基盤の一部が解明されている。

4. 今後の研究の推進方策

トルポパに関しては、彼の主著である『山法了義大海』を調査し、前記の文献との関係

を解明する必要がある。さらには、ターラナータの『最乗詳説大中観論』のさらなる解読調査、および大中観思想がチベットに与えた影響として、サキヤ派のシャーキヤ・チョクデンの著作を調査する必要がある。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

Kaie Mochizuki, "On the first chapter of the *dBu ma theg mchog* by Taranatha", 『印度学仏教学研究』58-3, 2010, pp. 1252-1259.

望月海慧「Dol po paの『宝性論積善説陽光論』について(III)」『身延山大学仏教学部紀要』10, 2009, pp. 1-50.

望月海慧「Dol po paの『宝性論積善説陽光論』について(II)」『身延山大学仏教学部紀要』9, 2008, pp. 65-119.

Kaie Mochizuki, "On the Commentary on the *Ratnagotravibhaga* by Dol po pa", 『印度学仏教学研究』57-3, 2009, pp. 1253-1260.

望月海慧「Dol po paはDharmadhatustavaをどのように読んだのか」『印度学仏教学研究』56-2, 2008, pp. (85)-(95).

望月海慧「Dol po paの二諦説理解について(II)」『身延山大学仏教学部紀要』8, 2007, pp. 23-64.

[図書] (計2件)

Kaie Mochizuki ed., *Acta Tibetica et Buddhica*, vol. 1, 2008, Minobusan University.

Kaie Mochizuki ed., *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 2, 2009.